

キャンパスパル

国公立大学の「改革」

国公立大学の「改革」に反発して、キャンパスを去る研究者が少なくない。横浜市立大国際文化学部教授だった今谷明さん(61)「写真、円内」もその一人だ。同教授の退職は同学部生の私にも大きな影響を与えた。改革の中で、学生の不安は増す一方である。

【横浜市立大・今井美津子、写真も】

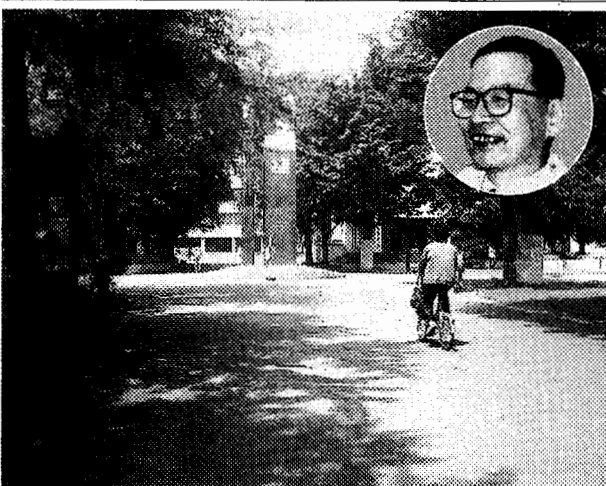
横浜市大、地方独立法人に移行へ キャンパスは「異常事態」

学生は不安、研究者は去っていく

中田宏・横浜市長を中心に同大改革が進められている。来年度には地方独立行政法人に移行する予定だ。改革案は①教員の任期制・年俸制の導入 ②商・理・国際文化の3学部を統合③研究費の原則カット④学費の値上げ⑤教員の削減などだ。

これに反発して国際文化学部では4学科の2学科長が03年度限りで大学を去った。今谷教授もその一人だ。「室町の王権」(中公新書)、「信長と天皇」(講談社学術文庫)などで知られる日本中世史の専門家。86年から18年間、同大に在職してきたが、今春、国際日本文化研究センター(京都市)の教授に移った。

同教授は「今まであり



横浜市立大のキャンパス

えなかった異常事態だ」と語る。今回の改革は教員たちにとって「不合理を感じさせるばかりだ」と言う。「大学行政にかかわったことのない市長と市職員が進められ、教授会は無視されてきた」

次の職場も決まらないうちに「大学を辞める」と宣言した教員もいるほどだ。今谷教授は「今までの環境が良すぎた。教員は自由に研究できたのに、この改革は納得できない」と語る。今回の改革で研究費もカットされ

からだ。市長の諮問機関である「市立大学の今後のあり方懇談会」にも、同大教授は含まれていない。

大学周辺 アジテーション?

青山学院大の淵野辺キャンパスの通り道にラブホあり。そんなに近くにないても……(A)

ることになり、研究費を自己ねん出ししなければならなくなった。「忙しくて研究どころではなくなる」という。

今回の退職は「市長のやり方に耐えられなかった」からだ。今谷教授は「学生が素直で教えやすい。教員にとって非常に良い環境で、大学を辞めるつもりはなかった」という。「予算は5%、10%と徐々に減らしていくべきだ。今回の改革は大学の伝統を無視している。予算と伝統を調整しながら、改革を進めるべきだ」と指摘する。

きな賞品がもらえるってわけ。ヤマザキ春のパン祭りはお皿をもらって、食いしん坊のレットをばらされるのがオチ。でも、こっちはリストアップも、おまけ

自己満足は、プライスレス。ブックオフで100円の棚から新潮文庫をあさる私って……。おまけビンボー度100%。【日本女子大・吉澤早】

みどく
読見
しました。

Yonda?

ciub

昔からおまけに弱い。ヤマザキ春のパン祭りだってお皿がほしいわけじゃない。集める過程に喜びがある。そんなコレクター魂に火をつけるのが「Yonda? ciub」。

新潮文庫を読みまくって得点を集めると、すて

らうのに、50冊の本を読まなくてはいけない。時計に「知的」という付加価値がつく。そんなことは期待しなくても、



イラストは静岡大・志村将史